

海外安全対策情報（平成27年1月～3月）

1 社会情勢及び一般犯罪の傾向

（1）1月12日午後、公共バス及びメトロを運営する会社の運転手が予告なしのストライキを開始し、帰宅できない人々でチュニス市は大混乱となりました。同ストライキは15日まで続きました。報道によると、ストライキの理由は、ボーナスに関する労組と運輸省との間の合意が実施されていないこととの由です。また、2014年のストライキの件数は、前年より13%増加し、そのうち47%は予告なしで非合法的に行われたとの由です。

（2）3月29日、バルドー国立博物館における銃撃テロ事件（同月18日）を受け、チュニジア政府主催「反テロ大行進」及び博物館における追悼セレモニーが開催されました。同イベントには、政府要人、各国首脳級ゲストの他、一般市民も含め1万5000人（政府系メディアの発表）が参加しました。エセブシ大統領は、今次被害者への哀悼の意を捧げると共に、今後テロとの戦いに団結して取り組むことを表明しました。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

1月中旬の午後5時頃、邦人女性が買い物を終え、アパートの部屋に入ろうとしたところ、男が同時に侵入し、同女性の後方から女性の首に腕を回して、刃物（刃渡り約15cm）を突きつけ、女性が肩に掛けていたバッグを脅し取るという事件が発生しました。犯人は、バッグを奪うと、付近で待機していた共犯者と共にオートバイで逃走しました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

（1）2月18日未明、カスリン県ブラアバ（シャアンビ山とサンマーマ山の間）の道路をパトロール中の国家警察隊車両をテログループが襲撃し、隊員4名が死亡しました。テログループは約20名からなり、パトロール隊に向かって銃を乱射し、殺害した隊員の武器を奪い逃走しました。後日、ツイッター上でテロ組織「ウクバ・イブン・ナーフィア旅団」が本件の犯行声明を出しました。

（2）3月18日正午ころ、チュニス市にあるバルドー国立博物館に武装したテロリストが侵入し、銃撃により日本人3名を含む外国人22名が殺害されるというテロ事件が発生しました。実行犯は、自動小銃だけでなく手榴弾や自爆ベルトで武装しており、同博物館を訪れていた外国人観光客を狙って襲撃した模様です。実行犯のうち2名が現場にて特殊部隊により射殺されましたが、事件後、本件に関与したとみられる数十名が逮捕されました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していません。

5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

6 日本企業の安全に関する諸問題

日本企業を標的とした事例はありませんが、3月に当地で発生したバルドー博物館におけるテロ事件では日本人観光客が犠牲になっています。また、隣国アルジェリアでは、2013年1月に日本人企業者が犠牲となったイナメナス事件が発生しています。こうした状況に鑑みれば、今後も日本人・日本企業が被害者となるテロ・誘拐事件が発生する可能性を排除することはできませんので、常に警戒を怠ることなく、自らの安全確保に十分注意することが必要となります。

また、外務省ホームページ等で「スポット情報」、「危険情報」等を掲載しておりますので、渡航前にはこれらの情報を参照されるとともに、テロ事件等の不測の事態に遭遇した際には、大使館に速やかに連絡されるようお願いします。